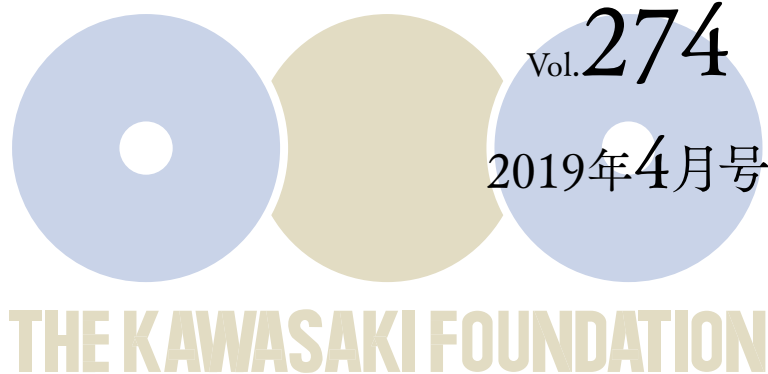


かわさき アートニュース



第7回川崎郷土・市民劇

日本民家園 ものがたり

壮大なロマンを実現させた男のドラマ

5月10日(金)～12日(日) 多摩市民館
5月18日(土)・19日(日) エポックなかはら

02 特集

『日本民家園ものがたり』上演に向けて

インタビュー：鈴木 龍男さん(前進座・演出家)



写真 小池 汪

CONTENTS [目次]

05 | 歴史・文化 東海道かわさき宿交流館 06 | 音楽 ミューザ川崎シンフォニーホール 09 | イベントレビュー
10 | 美術 市内ギャラリー情報 13 | 演劇 アルテリオ小劇場 14 | 映画 アルテリオ映像館

国指定重要文化財「江向家住宅」
(写真:川崎市立日本民家園)

第7回川崎郷土・市民劇 日本民家園ものがたり 生田緑地に心のふるさとを インタビュー／鈴木龍男さん(前進座・演出家)

あらすじ

日本を代表する古民家の博物館、日本民家園は川崎が誇る文化遺産で、52年前の1967年に誕生した。しかし、それは信じがたいほどの紆余曲折を経て誕生したのだった。川崎の古民家、伊藤家が県の文化財審議会の決定によって横浜の三溪園に移されることになった。県が一度決めたことをそう簡単に覆せるはずがない。しかし、当時、市の社会教育文化担当だった古江亮仁は川崎への返還を求めて立ち上がる……。



日本民家園設立に尽力した
川崎市役所職員
古江亮仁さん(～2001年)

「川崎郷土・市民劇」は、川崎の歴史や人物を取り上げ、市民の手で劇化上演することにより、市民文化の向上と豊かなまちづくりを推進しようと2006年に始まりました。以来6作品を上演、毎回3,500名以上の皆様にご覧いただき好評を得ています。

第7回目の演出は、第5回『華やかな散歩』(佐藤惣之助)に続き2度目となる鈴木龍男さん(前進座)です。

今回の『日本民家園ものがたり』は、ひと言で言ってしまうと「どのようにして生田緑地に日本民家園ができたか」というお話ですが、そこには大変な苦労があったわけです。様々な困難をどう打ち破り、どんな想いで日本民家園を作ったのか、市民の活躍を描いていきます。

これまでの6作品と比べると、最も現代に近いのが特徴ですね。舞台は1964年、オリンピックや高度経済成長期の頃ですので、登場人物のほとんどは実在された方がモデルになっています。主人公となる古江亮仁さんも、川崎市職員として日本民家園の設立にご尽力され、初代園長になられた方です。また、歴史上の偉人でない、一市民の活躍をクローズアップすることも今までに

なかったことで、私は今回の台本の中で一番魅力的なところだと思っています。日本民家園は単に行政の内側でできた訳ではなく、様々な市民の力が繋がったからこそできた。個人の力というのは小さいですが、それが集まって大きなものになっていったわけです。

**地方出身労働者のまち
求められた“心のふるさと”とは**
——登場人物や時代背景について教えてください。

古江さんをはじめ教育委員会の職員や議会議員のほか、地方から出稼ぎに来た人たちもたくさん登場します。川崎には京浜工業地帯があったので、私より少し前の世代は東北から集団就職で、中学校を卒業してすぐに住み込みで働きに来る青年がたくさんいました。沖縄から来る人も多かった。そうした方たちが川崎の経済を支え、さらに、そうした方たちの子孫が今の川崎市民になっているわけですね。

急速な経済発展の一方では弊害も生まれました。多摩川だって私が東京に来た頃は本当に汚かった。社会の発展と人々の生活や自然との調和が問われた時代です。太田という飛騨出身の労働者が出てきますが、彼は苦しい生活の中、川崎駅前に実在した古民家料理屋をモデルにした古民家料亭「白川郷」に居場所を感じるんですね。古江さんはそんな彼を見て、田舎からでてきて働いている人達が川崎にいても「どこかふるさとに出会える場所」ができたら良いんじゃないか、必要なんじゃないかというふうに思った。日本民家園は川崎だからこそ作る意味があったわけです。

消えゆく古民家を守る

——古民家の移転先を巡って物語が展開しますが、なぜ移転が必要だったのでしょうか？

劇中にも出てくるように、当時川崎には伊藤家と清宮家が残っていました。私の地元新潟でも、小学生の頃はまだかろうじて古民家が残っていましたが、どんどん屋根を葺き替えてしまっていましたね。その時点では文化財ではないので、なんの補助もないですから。古江さんはそれをほっとけなくて、古民家は川崎の財産だと主張した。念頭にあったのは、スウェーデンにある国内の古民家を集めた野外博物館だったそうです。

ただ、今の建築とは違いますから、移転も維持も大変で。舞台の中心となる古民家料亭「白川郷」も、一個人が飛騨から移築したんだそうですが、一度バラシて組み立てるのはかなりのお金がかかったそうですよ。日本民家園完成後の維持管理も、東北出身の青年たちがボランティアを買って出たそうで、定期的に囲炉裏の火を焚かないと古民家は朽ちてしまうというのは、住んだことのある人間にしか分からなかったことだと思います。

復興と破壊を写真で

——脚本の小川信夫さんとお話を聞かせてください。

小川さんは第1回から今回まで7作も続けて書いてらっしゃる。そのエネルギーはもちろんですし、毎回こと細かに調べてられていて本当にすごい方ですよ。小川さんが今回「ぜひやってほしい」とおっしゃったのは、オリンピックを前後する時期の、復興す



プロフィール

鈴木龍男 Suzuki Tatsuo

1953年8月29日生まれ。新潟県南魚沼市六日町出身。1976年二松学舎大学国文科卒業。同年3月劇団前進座文芸演出部入座、現在前進座座友。演出者協会会員、舞台監督協会理事、アシテジ(国際児童青少年舞台芸術協会)日本センター理事、日本演劇協会会員。近年の演出作品—『龍の子太郎』(前進座)・『森は生きている』(劇団仲間)・『イヌの仇討』(人形劇団ひとみ座)など。

る部分と壊されていく部分の両方を写真で見せていくということです。そのため、小池汪さんという川崎の歴史に造詣が深く、長年写真を撮っていらっしゃる先生にご協力をいただき、物語に合った写真30～40枚を使用する予定です。

ドキュメンタリー的な演出 懐かしの方言も満載

——そうした写真も含め、演出の構想は？

写真は主に舞台転換のときに、紗幕という細かな網目状の幕に映す予定です。舞台前面に降ろす幕なので、紗幕より奥の舞台に明かりを入れない限り、スクリーンのように写真が映って見えるんですね。奥に明かりを入れていくと奥の風景がぱっと見えてきますので、写真の中に風景が溶け込むようなイメージ。そして紗幕を上げて、再び芝居が始まる。それを繰り返して進行します。

舞台セットは場面ごとに全て取り替えるのではなく、シンプルなセットをいろんな場面に変えられるように計画しています。場面は主に“白川郷”の店内と、教育長室が多いです。さらに、いろんな地方から川崎に働きに来ている人たちがいることを表現するために、様々な方言が出てくるので、そこも楽しんでもらえるといいですね。

歴史を追体験する

——川崎郷土・市民劇の魅力とは？

川崎市という特定した地域の中で、あまり知られていない歴史やそこで生きていた人達の生き様を掘り起こしていくのは、すごく素敵なことだと思いますよ。さらに、出演するのは基本的には市民や神奈川県下の方々で、自分たちの身体を通して歴史を追体験し、演劇という分かりやすい形で伝えていく。誰かがやらない限り文献しか残らないわけで

すから、素晴らしい試みだと思います。

演劇の持つ力

——どんな方が出演されますか？

主婦の方や年金受給者の方、お坊さん、元看護師さん、お医者さんなど、いろいろな背景を持った方がいらっしゃいますね。初めて出る方や、第1回から全部出てる方も。プロは1名、東京芸術座の方に古江さん役をお願いしています。

——稽古の中で苦勞することはありますか？

これからが大変だと思いますね。この間も、声がどのくらい出るか、身体が自由に動くかなどのワークショップをしました。やっぱりある程度訓練しないとと思ったようにはいきませんから。

あとは、皆さんが内に秘めているものをどれくらい引き出せるかですね。誰だってみんな、自分の個性って割と埋もれていて、表面に出てきているのは自分が普段やりやすい部分だけなんです。ですので、個性的な部分を引き出してあげたい。全然違う人物になるよりも、自分を役に重ねた方がいいですからね。例えば、普段あまりしゃべらない人なら、舞台だと雄弁にしゃべる役というふうにしていくと、きっと舞台が終わった後、その人は少し変わります。演劇には、何というか、癒し効果みたいなものがあるので、一度体験するとやめられなくなる(笑)。これまでの市民劇の出演者には、その後も他の芝居に出続けている人が結構いらっしゃいますからね。

ふるさとを愛おしむきっかけに

——お客様にメッセージをお願いします。

今回の劇は、立派な人の偉業を見るものではありません。自分たちの親世代とかおじいちゃん世代がどんな風にして川崎の



民家園誕生のきっかけとなった古民家「伊藤家住宅」
国指定重要文化財(写真:川崎市立日本民家園)

まちを支えてきたかをよく知っていただきたいなと思いますし、今身近にあるものにもう少し目を向けていただけたら。きっと川崎の中に埋もれている文化みたいなものはまだまだあるので、古いものから新しいもののヒントを得ていくということも必要なんじゃないかと思いますね。そこにはいろんな人間が生きっていて、いろんな生き様がある。それらを活力にして、自分たちもこれからの川崎を、ふるさとをどんなふうに愛おしんでいけるか、考えるきっかけになるといいと思っています。

公演概要

Information

第7回川崎郷土・市民劇

日本民家園ものがたり

作:小川信夫 演出:鈴木龍男(前進座)

●多摩市民館

2019.5.10(金)18:30/11(土)14:00
12(日)14:00

●エポックなかはら

2019.5.18(土)14:00/19(日)14:00

[チケット]自由席 一般2,900円 親子券3,500円
学生・障がい者1,000円
(当日券は各300円増)

指定席 3,600円(前売りのみ)

※取り扱い・お問合せ先は次ページをご覧ください。

日本民家園はこんなところ

昭和42年に開園した古民家の野外博物館・川崎市立日本民家園では、東日本の代表的な民家をはじめ、水車小屋・船頭小屋・高倉・歌舞伎舞台など25件の建物をみることができます。

この25件全てが国・県・市の文化財指定を受けており、民家に関する民俗資料なども収蔵し、日本を代表する古民家の野外博物館の一つとなっています。

●開園時間/9:30～17:00(11～2月は16:30まで)

●休園日/月曜日(祝日にあたる場合は翌火曜日)

祝日の翌日(土・日・祝にあたる場合は開園/臨時休園あり)

●川崎市立日本民家園

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形7-1-1
小田急線「向ヶ丘遊園」駅南口から徒歩約13分

☎ 044-922-2181



第7回川崎郷土・市民劇

『日本民家園ものがたり』稽古場レポート

今回出演いただくのは、2018年の秋に公募で集まった市民およびプロ・アマの役者の皆さん35名。ワークショップを経て、今年1月に配役が決定しました。

演出家・鈴木龍男さん（前進座）ご指導のもと、本番に向けて週3回の熱心な稽古が続いている稽古場にお邪魔しました。（2月9日取材）



台本読み合わせ稽古の様子。
スペース京浜（幸区古市場）にて

出演者インタビュー

山村 勇人さん（東京芸術座）

〔川崎市文化財担当職員 古江亮仁役〕

—主人公である古江さんの印象や、本番に向けての役づくり、意気込みを教えてください。

情熱的な方ですね。何もなかったところに古民家移して集落を作るといふ発想ができて、しかもそれを実現するって、今の僕には想像すら難しいほどのエネルギーだと感じました。ただ、本当にどういう人だったのかは稽古の中で探りながらでしか分かりませんから、今は荒いデッサンのように人物を創り上げているような段階です。共演者の皆さんと時間をかけて深めていきたいと思っています。古江さんのことも民家園のことも知らなかったんで、12月にはみんなで実際に民家園を観に行きました。こんな場所があるんだよ、こんなすごい人がいたんだよ、というのが伝わってくれば、嬉しいです。



藤井 康雄さん

〔川崎市教育委員会 大葉教育長役〕

—大葉教育長という役はどんな役で、どのように演じたいと思われますか？

僕も中卒で川崎に来て集団就職した世代です。今になって物語を読むと、「ああそうだなあ」と身に染みてよくわかる作品。大葉教育長は、古江さんの「文化財を川崎に残す」という想いを汲み、「何とか実現させたい」と先頭に立って後押しする役どころです。行政の狭間で抵抗勢力に遭うけれど、一生懸命調整を重ね、打開策を講じながら一緒に実現を目指します。宮城出身で自分の方言を直すのに何十年もかかったり、興奮すると方言が出たりする部分もあります。思い込んだらやるという一途なところを出せば良いと思います。



瀬谷 やほこさん

〔あけぼの荘の賭け人 原口ミツ役〕

—市民劇に出演されるのは6回目ということですが、今回の作品はいかがですか？

今の川崎の人口構成というのは、あの頃地方から出てきた人でできていますよね。物語の舞台になっている民謡酒場“白川郷”の民家を実際に見た記憶があります。私は臨港バスに勤めていたのですぐ近くだったんです。映画街にはたくさん人が集まっていた。日進町もよく通っていました。昔の川崎を知っているんで、この作品に出演するのは楽しいし、原口ミツは川崎市を作った人達の中のほんの一部の人でしょうけれど、そういう役を演じることができて嬉しいです。



西野 昭伸さん

〔岩手弁の労働者〕

—演劇に出演されるのは初めてだそうです。どのような気持ちで臨まれていますか？

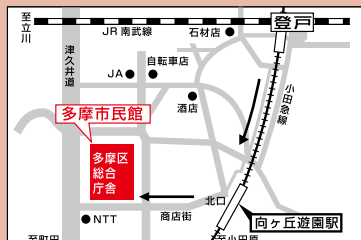
事務局の方に誘っていただき、何か一つ、77歳になって感動するようなものを味わいたいと思って参加しました。私は腹話術をやっていたので、最近インストラクターの認定証をいただいたのですが、この年になって「やった」「嬉しい」というのは若者の頃とは違う格別さです。演劇は初めてなのでドキドキしますが、結婚式のスピーチのように、緊張した後にほっとする落差が大好きなので、みんなで達成感を味わいたいですし、冥途の土産にしたいと思っています。



多摩市民館

5月10日（金）18:30
11日（土）14:00
12日（日）14:00
〈開場は開演の30分前〉

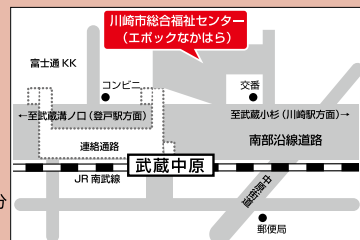
※登戸駅からは徒歩15分ですが、現在区画整理のため、道順は線路沿いに歩き、向ヶ丘遊園駅まで出ていただき、小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車 徒歩5分
TEL:044-935-3333



エポックなからは

5月18日（土）14:00
19日（日）14:00
〈開場は開演の30分前〉

JR 南武線「武蔵中原」駅下車 徒歩1分
TEL:044-722-0185



チケット取扱い

川崎文化会議（川崎市）	044-244-7481	京浜協同劇団（幸区）	044-511-4951	アートセンター（麻生区）	044-955-0107
ラゾーナ川崎プラザソル（幸区）	044-874-8501	川崎市民劇場なかはら（高津区）	044-455-7950	ホームページから	CoRich(こりっち)で

前売り

一般 2,900円 親子券 3,500円（親と小中学生） 学生・障がい者 1,000円（当日券は各300円増） 指定席券 3,600円（前売りのみ）

お問合せ先 **川崎郷土・市民劇上演実行委員会事務局** 電話&FAX **044-555-0588**

ホームページ [川崎郷土・市民劇](#) 検索

E-mail: k.shimingeki@gmail.com



東海道かわさき宿交流館

TOKAIDO KAWASAKI SHUKU KORYUKAN



休館日：毎週月曜日。月曜が祝日の場合は、翌日が休館。

江戸時代の粋に遊ぶ その37 「今様(いまよう)」

平安時代に流行した歌舞。貴族から民衆が愛した七・五調の調べを作っていただき、雅な即興舞をお楽しみください。

日時：4月13日(土)14時開演(13時30分開場)

料金：全席自由 1,500円 定員：先着100名(自由席・事前予約不要)

会場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室 出演：日本今様譚 舞楽会



写真はイメージです。

講演de交流

フレッシュで今時な若手講師を応援しましょう。

日時：4月28日(日)14時開演(13時30分開場)

料金：無料 定員：先着100名(自由席)

会場：東海道かわさき宿交流館4階 集会室

出演：[前座]一龍斎 貞奈 [二つ目]神田 すず



一龍斎 貞奈



神田 すず

●申込は往復はがきで。住所・氏名(2名まで)・電話番号を明記の上、交流館まで
[川崎区本町1-8-4]お送りください。

●締め切りは4月16日(火)消印有効。抽選結果は、4月20日(土)頃にご連絡(返信)します。

企画展 佐藤惣之助と沖縄

日時：4月9日(火)～5月26日(日)9時～17時

料金：無料

会場：東海道かわさき宿交流館3階 企画展示室



佐藤惣之助

展示－宿場時代の川崎(2階)

江戸時代の川崎宿の歴史や当時の情報があります。
旅人の衣装を着て記念撮影もできます。



展示－江戸から現代へ(3階)

明治以降の川崎市の歴史や、ゆかりの人物などの展示
があります。



貸館案内 4階の集会室は、ふれあいネット(川崎市公共施設利用予約システム)にて利用予約が必要です。

〒210-0001 川崎市川崎区本町1丁目8番地4

TEL.044-280-7321 FAX.044-280-7314

<http://www.kawasakishuku.jp/>

【アクセス】京急川崎駅より徒歩約6分、

JR川崎駅中央東口から徒歩約10分、北口東から徒歩約10分



ミューザ川崎シンフォニーホール おすすめ公演情報

ホールアドバイザー秋山和慶&佐山雅弘企画 オーケストラで楽しむ映画音楽X

[日時] 4月7日(日) 15:00開演(14:00開場、17:15終演予定)
14:20～プレトーク

[会場] カルッツかわさき(川崎市スポーツ・文化総合センター)

[出演] 指揮:秋山和慶 管弦楽:東京交響楽団
ゲスト:服部百音(ヴァイオリン)、清水アキラ(歌)、
山田姉妹(ソプラノデュオ)

[曲目] *J.ウィリアムズ(arr.)Tribute to the Film Composer
(『カサブランカ』『ニュー・シネマ・パラダイス』『E.T.』『ゴッドファーザー』『スターウォーズ』 ほか)
*「ツィゴイネルワイゼン」 *刑事ドラマメドレー ～「太陽にほえろ」「相棒」「古畑任三郎」「踊る大捜査線」
*『風と共に去りぬ』～Sayama Special
*1960年代楽曲メドレー ～「こんにちは赤ちゃん」「スーダラ節」「ウナ・セラ・ディ・東京」「明日があるさ」
*「シェルブールの雨傘」 *「007」シリーズメドレー ほか



秋山和慶



服部百音



清水アキラ



東京交響楽団



山田姉妹



中井美穂

100席限定!4歳から入場OK! MUZAモーニングコンサート

休館期間中の特別版!

すがすがしい朝のコンサートで新鮮な一日のはじまりはいかがでしょう。

各公演とも10:30開演(10:00開場、11:10終演予定、途中休憩なし)

[会場] ミューザ川崎4階 市民交流室(音楽工房内)

[チケット] 全席自由・各回500円

4月23日(火)「連弾で聴く“春”の名曲たち」 瀬尾久仁&加藤真一郎ピアノデュオ

[曲目] ドヴォルザーク:スラブ舞曲集第2集
ドビュッシー:小組曲 ほか

6月19日(水)「オカリナで奏でる初夏の風」

[出演] オカリナ:茨木智博 ピアノ:森 悠也
[曲目] 武満 徹:小さな空、森 悠也:箱庭の小鳥 ほか

※車いす席は数に限りがあるため事前にお問合せください。 ※前売りで売り切れた場合、当日券の販売はございません。



瀬尾久仁 & 加藤真一郎



茨木智博



森 悠也

ミューザ川崎シンフォニーホール15周年記念事業 「川崎おんがくかるた」読み札募集!

ミューザ川崎シンフォニーホールでは、2019年の開館15周年を記念して「川崎おんがくかるた」をつくります。
この読み札を、広く一般のみなさまから募集します。

テーマは「ミューザ」「音楽」「川崎市」いずれかに関することならなんでもOK!ぜひ、奮ってご応募ください。
採用された方には完成品を差し上げます。

[募集期間] 2月1日(金)～5月5日(日)必着

[募集内容] 「あ」～「わ」までの読み札(20文字以内)※「ゐ」「ゑ」「を」「ん」は除く

[応募方法] 下記①～③のいずれかの方法でご応募ください。

①ホームページの専用フォームから入力 <https://www.kawasaki-sym-hall.jp/15th/form/>

応募用紙に記入して ②FAX:044-520-0103まで送信

③ミューザ川崎シンフォニーホール4Fチケットカウンターに設置の応募箱に投函

※お1人様何点でも応募いただけます。 ※応募作品は、自身が作成したオリジナル、かつ、未発表で第三者の著作権を侵害しないものとします。

※応募作品の使用権は主催者に帰属し、無償で使用させていただきます。 ※応募作品は、主催者が変更・修正を加えさせていただきますことがあります。

[お問合せ/主催] ミューザ川崎シンフォニーホール 044-520-0200(10:00～18:00)

臨海部クルーズ

川崎市観光協会×ミュージア川崎シンフォニーホール

大人気ツアー「臨海部クルーズ」とのスペシャル・コラボレーションが決定！
貸切クルーズ船で潮風を感じながら、ニューオーリンズ・プラスのグルーブに酔う、
特別なライブ体験をお届けします。

[日 時] 5月25日(土) (集合時間は出発時刻の15分前)

サンセットクルーズ 16:30～18:30

工場夜景クルーズ 19:00～21:00

[会 場] クルーズ船「フロンティアルーツ」

(集合場所:根本造船所) (定員:100名、最小催行人数:20名)

[出 演] ブラック・ボトム・プラス・バンド

[曲 目] Sing, Sing, Sing Down By The Riverside ワッショイブギ ほか

[チケット] 一般5,800円(税込)軽食・飲み放題付(アルコール含む)

※未就学のお子様のご参加はご遠慮ください

[発売日] 3月27日(水)～ ※各発売初日は10:00～受付開始

※ミュージアでのチケット取り扱いはありません。お申し込みは下記の「旅プラスワン」にて承ります。

[申込・お問合せ] 03-6866-9608 旅プラスワン(平日・土曜 10:00～18:00、日曜・祝日 定休日)

運航:株式会社フロンティア 特別協力:川崎産業観光振興協議会

協力:川崎市・(一社)川崎市観光協会 共催:ミュージア川崎シンフォニーホール



ブラック・ボトム・プラス・バンド

ミュージア川崎シンフォニーホール

こどもフェスタ2019

毎年恒例!今年はホール休館中のため、音楽工房にて開催します。

楽器体験とワークショップのほか、楽しいイベント満載♪

[事前予約なしで楽しめるイベント]

「オルガン工房」5月5日(日・祝)11:00～15:00

会場:企画展示室

参加
無料

出入り
自由

「工作コーナー・ワークショップ」

5月4日(土・祝)～5日(日・祝)11:00～15:00(一部有料)

協力:NPO法人幸区盛り上げ隊(5月5日のみ)

会場:歓喜の広場(ホール入口前広場)

※このほか、当日はミニコンサート、音のワークショップ、楽器体験などを
開催しております(参加募集は終了しました)



まもなく
発売情報
公開!

【シンフォニーホール公演発売情報】

フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2019

3月27日(水)14:00に公式HPにてラインナップ発表。2019年も真夏は川崎で音楽三昧♪



昨年オープニングの様子

お申込み・お問合せ ●ミュージア川崎シンフォニーホール [TEL] 044-520-0200(10:00～18:00) [チケットカウンター] 10:00～19:00

[Web]ミュージアWebチケット <http://muza.pia.jp/>

ミュージア

検索



ミュージザ川崎シンフォニーホール 舞台設備改修およびパイプオルガンメンテナンス実施中

ミュージザ川崎シンフォニーホールでは1月15日から舞台改修およびパイプオルガンのメンテナンスを実施中です。
ミュージザの顔ともいえる巨大なパイプオルガン、どのように作業が行われているのでしょうか。

今回のメンテナンスでは、ミュージザのパイプオルガン 5248 本のパイプのうち、約 1000 本近いパイプの整音作業が行われました。整音とは、音色・音量、発音などの調整作業のことです。ミュージザのパイプオルガンは、スイスのクーン社というオルガン製作会社によって作られました。現在、ミュージザの楽器のメンテナンス・調律を担当しているのは、県内に工房を持つ横田宗隆オルガン製作研究所の横田宗隆さん。世界的なオルガンビルダーです。

メンテナンスの初期段階では、ミュージザのホールアドバイザーである松居直美さん、ホールオルガニストの大木麻理さんと共に、整音を施したサンプルの音と、現在の音とを比較。方向性を確認しながら作業を進めました。

パイプの空気の入る部分や、歌口（音の出るところ）の部分の削ったり広げたりしながら、一本一本調整していきます。普段はオルガンの中に入っているパイプがホールのロビーに並べられている姿は圧巻です。高さ約 6m、4 階建ての構造をもつ、建物のようなパイプオルガンですから、メンテナンスはまるで建築現場のような雰囲気も。整音を終えたパイプたちは再びもとの場所へと収められます。7 月 1 日の再オープン、どうぞお楽しみに！



*ミュージザブログにて、メンテナンスの詳細なレポートを公開しています。ぜひあわせてご覧ください。



上：歌口 下：空気穴
写真左がメンテナンス後のパイプ

ホール休館中も、チケットセンターおよび音楽工房（市民交流室・企画展示室・会議室・研修室・練習室）は平常通り営業しております。ぜひお立ち寄りください。

◆チケットカウンター（10：00～19：00） ◆TEL：044-520-0200（10：00～18：00）

◆ミュージザ Web チケット <http://muza.pia.jp>

ミュージザ

検索

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

15
YEARS

祝祭のオスティナート

～4人のオルガニストが紡ぐ明日への響き～



1月15日から設備改修工事期間に入ったミューザの、文字通り休館前ラストとなったコンサート。“オスティナート”とは、とは音楽用語で一定のリズムやメロディーを続けて何度も繰り返し、曲が展開されていく音楽形式のことです。半年間の休館は挟みませんが「これからも素敵な音楽を奏でる“場”として続いていく!」という願いをタイトルに込めました。

ミューザにはもともと大オルガンの他、移動も可能なポジティブオルガンが1台あります。今回はこの2台に加え、あと2台のポジティブオルガンを運び入れ、最大で4人が一緒に演奏するという、オルガンの演奏会ではかなりめづらしい一幕も見ることができました。

ミューザのホールオルガニスト大木麻理さんをはじめ4人のオルガニストが、一つ一つの曲を名残惜しむように奏でました。

(1月14日 ミューザ川崎シンフォニーホール)

かわりゆくまち 川崎百景

～さとう菊夫 企画展～



川崎区誌研究会・川崎市立川崎図書館・川崎市文化財団が毎年合同で開催している、川崎をテーマとした企画展。今年は「川崎の田園風景や名所」を情緒豊かに描いてこられた、さとう菊夫さんの絵画約100点をご紹介します、550名以上の皆様にご来場いただきました。

【お客さまの声より】

- 変わってゆくまち、変わらぬ自然、自分を振り返りながらの一時、なつかしさがこみ上げてきました。絵の配列や写真との対比など、工夫もあり、とても良かったと思います。(60代/男性)
- 九州から川崎へ移り住んできました。これまで川崎になかなか魅力を感じられずにいましたが自然が多く描かれている風景を見てとても心が洗われる思いでした。自分の目でも改めて川崎を見ていきたいと感じました。(30代/女性)

(1月29日～2月3日 アートガーデンかわさき)

しんゆりシアター劇団わが町第8回公演

『みすゞ凛々』



©関口淳吉

幻の童謡詩人・金子みすゞ。舞台上のスクリーンに映る彼女が残した数々の詩と詩をメロディにのせた歌とともに、26年という彼女の短い生涯を描いた本作。幼少期の父の死、母と叔父の再婚、女癖の悪いみすゞの夫、その夫による大好きだった詩の創作の禁止、病気、そして離婚により娘の親権は父親へ、命に代えてでも娘を守るためにみすゞは自ら死を選ぶ……。のびのびとした詩の世界観からは想像もつかない壮絶な人生。しかし儚くも芯の強い優しさで、毎日を懸命に生きるみすゞ。彼女につらい選択をさせたのは「時代」。代表作の一つ「わたしと小鳥とすずと」の中の「みんながってみんないい」という一文は、いかに彼女が最先端だったかを象徴する言葉であり、彼女の残した多くの詩は大正・昭和・平成と時代を超えていまなお希望に溢れ続けています。

(2月9日～11日 川崎市アートセンター)

1月19日(土)に「第1回かわさき新人声楽コンクール」が“カルッツかわさき”にて開催されました

声楽界における優れた新人の発掘と育成を目指し、川崎市における芸術文化の振興と啓発普及の取組みとして「第1回かわさき新人声楽コンクール」が開催されました。当コンクールは、2018年10月末から募集を開始し、12月中旬の音源審査による予選を経て、2019年1月19日(土)に本選の公開審査を「カルッツかわさき」のホールにて行いました。本選では、オペラ歌手を目指す若手声楽家たち、34名が一堂に集い、ホールいっぱいに美しい歌声を響かせました。お客様、出場者、審査員の皆様からレベルの高いコンクールだったとの声があがっていました。出場者の今後の飛躍がとても楽しみです。本選が終了し審査結果が出るまでの間には、ソプラノ歌手の光岡曉恵さんによる模範演奏としてのミニコンサートも開催され、その素晴らしい演奏に、出場者の皆様も思いを新たにしているようでした。

◆ 実施内容は以下の通り

- ・日 程：2019年1月19日(土)
- ・会 場：カルッツかわさき ホール
- ・出 場 者：34名 ※28歳まで(2019年1月19日現在)
(ソプラノ18名 メゾソプラノ2名 テノール4名 バリトン5名 バス1名)
- ・審査委員：折江忠道(審査委員長)、郡愛子、小林一男、斉田正子
園田隆一郎、牧野正人(敬称略)

◆ 審査結果は以下の通り

- 第1位 工藤 和真 テノール 東京藝術大学大学院 在籍
- 第2位 杉山 沙織 メゾソプラノ 昭和音楽大学大学院 在籍
- 第3位 市川 宥一郎 バリトン 昭和音楽大学大学院 修了

《主催者概要》

主 催：カルッツかわさき
運営委員：運営委員長 岸田 生郎(カルッツかわさき アーティスティック・ディレクター)
多田 昭彦(公益財団法人 川崎市文化財団理事長)
佐竹 康峰(公益財団法人 日本オペラ振興会理事長)
平位 博昭(株式会社 コンベンションリンケージ代表取締役)
下八川共祐(学校法人 東成学園 昭和音楽大学理事長)



▲第1位の工藤和真さん



▲受賞者と審査委員・運営委員の皆さん

来年度は「第2回かわさき新人声楽コンクール」の開催を2020年2月23日(日)に予定

アートガーデンかわさき・市内ギャラリー・美術館等の展覧会情報

- 掲載情報は原則入場無料です。ただし、有料マークのある施設は入場料が必要な催し物の情報が含まれています。
- 各施設とも、催し物の内容・会期・料金等が変更になる場合がございますので、ご確認の上ご来館ください。 □=休館日

Event Calendar

2019.4

		1 Mon	2 Tue	3 Wed	4 Thu	5 Fri	6 Sat	7 Sun	8 Mon	9 Tue	10 Wed	11 Thu	12 Fri	13 Sat	14 Sun	15 Mon	16 Tue	17 Wed	18 Thu	19 Fri	20 Sat	21 Sun	22 Mon	23 Tue	24 Wed	25 Thu	26 Fri	27 Sat	28 Sun	29 Mon	30 Tue	5/1 Wed
アートガーデンかわさき(川崎区) 川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3F TEL.200-1415 【休館日】毎週月曜日 布工房キルトの杜 パッチワークキルト展	第1展示室																	フォトクラブ川崎写真展 4月16日(火)～21日(日)									放送大学写真クラブ写真展 4月30日(火・休)～5月5日(日・祝)					
	第2展示室		東京理科大学・同窓 理窓美術同好会 4月2日(火)～7日(日)						横浜書道学校 書陵展 4月9日(火)～14日(日)						フォトサークル写撮展 4月16日(火)～21日(日)																	
	第3展示室			布工房キルトの杜 パッチワークキルト展 4月3日(水)～7日(日)																写真展「いつか何処かで…」 4月23日(火)～28日(日)					新日美 神奈川支部展 4月30日(火・休)～5月5日(日・祝)							
川崎市教育文化会館市民ギャラリー(川崎区)																																
幸市民館市民ギャラリー(幸区)																																
中原市民館市民ギャラリー(中原区)																																
川崎市市民ミュージアム(中原区)																																
高津市民館市民ギャラリー(高津区)																																
宮前市民館市民ギャラリー(宮前区)																																
多摩市民館市民ギャラリー(多摩区)																																
川崎市岡本太郎美術館(多摩区)	企画展																															
	常設展																															
麻生市民館市民ギャラリー(麻生区)																																

(注)会期、時間等は各団体により、変更になることがありますので、ご確認の上ご来場ください。

川崎市市民ミュージアム〈中原区〉

企画展／4月23日(火)～6月30日(日)

岩合光昭写真展 ねこづくし

動物写真家・岩合光昭が日本各地で出逢った猫たちの中から、まとめた展示は初となる「島の猫」をはじめ、「神奈川のネコ」、「やきもの」のネコ」シリーズを中心に200余点をご紹介します。



©Mitsuru Iwago

観覧料等

- 会 場：2F企画展示室1、アートギャラリー1・2・3
- 観覧料：一般800円(640円)、65歳以上・大学生・高校生600円(480円)、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金です ※障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は無料

企画展／4月13日(土)～6月30日(日)

ZooとArt
— 色とカタチのどうぶつ展 —

ミュージアムのコレクションより、どうぶつを題材にした作品を「リアル」、「デザイン」、「コミカル」の3つの視点からご紹介します。数多くどうぶつを描いたレイモン・サヴィニャックの作品にも焦点を当て、まとめて展示します。



《博物誌／ルネール 岸田国士訳》1965年 103.5×73.5cm シルクスクリーン 川崎市市民ミュージアム所蔵

観覧料等 岩合光昭写真展の観覧者は無料！

- 会 場：2F企画展示室2 ●観覧料：一般200円(160円)、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金です ※障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は無料

企画展／3月2日(土)～4月14日(日)

竹宮恵子 カレイドスコープ
50th Anniversary

雑誌「COM」での『このつの友情』掲載から50年を記念して、代表作『風と木の詩』、『地球へ…』を含む原画やクロッキーノートなど貴重な作品約150点を展示し、漫画家・竹宮恵子の足跡をたどります。

観覧料等

- 会 場：2F企画展示室1
- 観覧料：一般800円(640円)、65歳以上・大学生・高校生600円(480円)、中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金です ※障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は無料

企画展／1月26日(土)～4月14日(日)

開館30周年「都市と人間」コレクション展
都市×モニュメント×カストロフィ

「都市」とは、そこに生きる人々の、災害や破壊などの大きな変化によって創り出された記憶が、モニュメント化して記録され、共有されている場所です。本展では、川崎・パリ・東京の3つの都市の姿を多様な収蔵品から紹介します。

観覧料等 ●会 場：2Fアートギャラリー1・2・3 ●観覧料：無料

映画上映／1F映像ホール

ポーランド映画祭 in 川崎

「竹宮恵子 カレイドスコープ 50th Anniversary」展の開催にあわせて、ポーランドの女性作家による話題作を上映します。また、デジタルリマスター版でよみがえったポーランド映画の傑作を併せてお楽しみください。



『サルト』

上映日・料金等

- 上映日：4月6日(土)～4月21日(日)
- 料 金：1プログラムにつき 一般600円／65歳以上・大学生・高校生500円／小中学生400円

※未就学児、障害者手帳等をお持ちの方およびその介護者は無料

- 上映作品／『灰とダイヤモンド』、『水の中のナイフ』、『サルト』、『ムーンライティング』、『顔』、『君はひとりじゃない』

※上映スケジュール、詳細はHPまたはお電話でお問い合わせください。

※その他、イベントの詳細は当館ホームページをご覧ください。

<http://www.kawasaki-museum.jp/event/>

中原区等々力1-2(等々力緑地内) TEL. 754-4500 FAX. 754-4533

【アクセス】JR・東武「武蔵小杉」駅北口1番乗り場からバスで約10分

【開館時間】9:30～17:00(入場は開館の30分前まで)

【休 館 日】月曜日 ※4月27日～30日の間は休まず開館

<http://www.kawasaki-museum.jp/>

●ホームページ、Twitter、Facebook、Instagramにて情報発信中！



川崎市岡本太郎美術館〈多摩区〉

有料

企画展／2月15日(金)～4月14日(日)

「第22回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」

時代に先駆けて、たえず新たな挑戦を続けてきた岡本太郎。岡本太郎現代芸術賞は、岡本の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するべく設立されました。今年で22回目をむかえる本賞では、416点の応募があり、創造性あふれる25名(組)の作家が入選をはたしました。21世紀における芸術の新しい可能性を探る、意欲的な作品をご覧ください。



観覧料等

- 料 金：一般700(560)円、高・大学生・65歳以上500(400)円、中学生以下は無料

※()は20名以上の団体料金 ※常設展もあわせてご覧いただけます。

休館日：月曜日(祝日は除く)

〈企画展開連イベント〉

◆第22回TARO賞ギャラリートーク

入選作家によるギャラリートークです。

- 日時：4月7日(日)、4月14日(日)14:00～ ●料金：観覧料のみ

常設展／1月18日(金)～4月26日(金)

2025年大阪万博開催決定記念

「ファンタジック TARO」

岡本太郎は絵画や彫刻などを制作すると同時に、数多くのインテリアのデザインも手がけています。《坐ることを拒否する椅子》や《顔のグラス》など、様々な“遊び”心にあふれた生活用品が販売されたことで、だれもが自宅で岡本の作品を楽しめるようになりました。本展では、岡本がデザインした工業製品を作品・原画・資料を通して紹介します。



《まどろみ》1967年

企画展／4月27日(土)～6月30日(日)

「岡本太郎と日本の伝統」

岡本太郎は著作『日本の伝統』のために縄文土器や中世の庭園を、自らシャッターを切ってカメラに収めています。本展では彼による写真作品を通して「日本の伝統」とは何かを再考します。



岡本太郎撮影(土偶) 東大入館学教室 1956年3月23日

観覧料等

- 料 金：一般900(720)円、高校・大学生・65歳以上700(560)円、中学生以下は無料

※()は20名以上の団体料金 ※企画展のみの開催です。

休館日：月曜日(祝日は除く、祝日の翌日、5月8日(水))

〈その他のイベント〉

◆専修大学EmoHill 春の桜ライブ

岡本太郎美術館カフェ前広場にて、専修大学アカペラサークル「EmoHill」による桜ライブを開催します。素敵な楽曲をお楽しみください。

- 日時：2019年4月14日(日) 12:40～13:20
- 場所：岡本太郎美術館カフェ前(屋外) ●料金：無料

※荒天中止

◆TARO鯉に挑む！

太郎さんが空を悠々と舞う鯉のぼりをつくりたいと「自分勝手に描いた」TARO鯉。今年は開館20周年特別版として、28日には約160cmの大きな鯉のぼりをつくります。皆さんも思い思いに描き、オリジナル鯉のぼりをつくりませんか？

- 日時：4月21日(日)、28日(日)、29日(月・祝) 各日13:00～15:30
- 対象：小学生以上 ●場所：展示室、創作アトリエ ●料金：観覧料のみ
- 定員：21日(日)、29日(月・祝)各日20名、28日(日)5組(1組3～5名でお申込みください)
- 申込：電話受付(4/3(水)10:00から)
- 展示期間：5/1(水・祝)～5/6(月・祝) 開館時間中※展示は雨天中止

※その他、イベントの詳細は当館ホームページをご覧ください。

<http://www.taromuseum.jp>

多摩区枳形7-1-5 TEL. 900-9898 FAX. 900-9966

【アクセス】小田急線向ヶ丘遊園駅南口徒歩17分、北口バス約10分

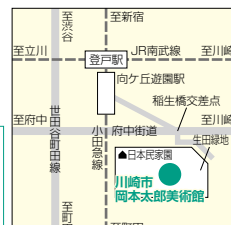
専修大学前下車徒歩6分

【開館時間】9:30～17:00(入館16:30まで)

【休 館 日】月曜日(祝日は除く、祝日の翌日、5月8日(水))

<http://www.taromuseum.jp>

●ホームページ、Facebookにて情報発信中



アルテリオ小劇場

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺6-7-1
TEL.044-955-0107 FAX.044-959-2200 <http://kawasaki-ac.jp/>
【アクセス】小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分
お問合せ●川崎市アートセンター 044-955-0107



川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2019

独演劇「土佐源氏」

演出・出演：坂本長利 原作：宮本常一『忘れられた日本人』より

坂本長利89歳、上演1200回を超えて今なお磨き続ける圧巻の舞台！

民俗学者・宮本常一著『忘れられた日本人』に収められている『土佐源氏』は、著者が昭和16年の冬に高知の山間の村・梶原で出会った盲目の元馬喰(牛馬仲買人)から聞いた話をもとに書かれたもの。ひたむきに生きる男の愛と性の物語は、単なる“色ざんげ”という言葉では言い表せない美しさを放っている。坂本長利が独演劇化し、1967年に初演して半世紀、国内外で1200回を超える舞台に立ち続けている。

2019年4月28日(日)～29日(月・祝) 13:00開演(12:30開場)

【チケット】一般3,500円 学生2,500円(全席指定・税込)※未就学児童のご入場はご遠慮ください。



山の音楽舎

「うたのたね～おんがくのはじまり～」

演出：宇佐美陽一 出演：はらだまほ、原田正俊、川中美樹

ちょっと不思議な まったりワールド

ベビーシアターは赤ちゃんが主役であり、観客でもある、ゆったりのにびり楽しめる舞台です。豊かな四季のある日本に伝わるわらべうたを中心に、音の“原風景”をご一緒にお楽しみください。海外でも注目を集める赤ちゃんのためのお芝居がアルテリッカしんゆりに初登場です！今回上演するのはうたのたね：夏。はっぱからこぼれおちた“ことば”や“うた”に、雨のしずくをまぜあわせると…こんなにおいしくなりました！小さな小さな人たちの、観る力、聴く力、そして感じる力の凄さに触発されて生まれた作品です。季節季節の喜びを小さな小さな人たちと一緒に体験してみませんか？

2019年5月3日(金・祝)～4日(土・祝) 開場・開演11:00※2階ロビーにご集合ください。

【チケット】親子ペア2,000円 大人2,000円(全席自由・税込)※対象年齢：0～30ヵ月 ※親子ペアに子どもを追加する場合は、1名500円でご覧いただけます。

【リラックス公演チケット】親子ペア1,500円(全席自由・税込)※対象年齢：0～5歳

★5/3(金・祝)14:00にリラックス公演を行います。これは配慮が必要なお子さんや障がいのあるお子さんと、その保護者の方を対象とした公演です。参加に際しのご心配な点や配慮が必要なことなど、お気軽にご相談下さい。お問合せ・お申し込みは、川崎市アートセンター アルテリオ小劇場044-955-0107まで。



劇団なんじゃもんじゃ「ベッカンコおに」

原作：さねとうあきら(「ゆきこんこん物語」より) 脚色：ふじたあさや

潤色：西尾瞬三 演出：劇団なんじゃもんじゃ 音楽：藤原 豊

鬼って一体どこにいる 人の中に鬼はいる 人も鬼になれる

笛吹峠にベッカンコ顔をからかわれた鬼が住んでいた。里には目が見えなくていじめられていた、ゆきという娘が住んでいた。二人は一緒に暮らすようになった。ゆきは幸せになればなるほど鬼のベッカンコ顔が見たくなかった。「鬼の顔は恐いがそれでも見たいか？」そう鬼が聞いたが、ゆきは「見たい！」と言った。

2019年5月6日(月・振休)11:00開演(10:45開場)

【チケット】大人2,000円 子ども1,000円(全席自由・税込)※子ども：4歳～中学生

※推奨年齢：4歳以上 ※3歳以下は大人1名につきひざ上1名無料



チケット取扱い

アルテリッカチケットセンター [tel]044-955-3100(10:00～17:00。土日祝のぞく。ただし4/1から毎日営業)
[web]<http://www.artericca-shinyuri.com/>

川崎市アートセンター [窓口]9:00～19:30(原則毎月第二月曜除く)

※他の窓口でもお取り扱いをしております。詳しくはお問合せください。

主催・お問合せ●川崎市アートセンター 044-955-0107

あなたはまだ帰ってこない

3.30(土)~4.12(金)

2017年|フランス、ベルギー、スイス|カラー|ビスタ|2h06|DCP

監督・脚本:エマニュエル・フンケル

出演:メラニー・ティエリー、ブノワ・マジメル、パンンジャマン・ピオレ、シュラミ・アダール

20世紀フランス文学を代表する作家マルグリット・デュラスの自伝的原作「苦悩」を映画化。1944年、第二次世界大戦のナチス占領下のパリ。作家の道を歩み始めたマルグリットは、夫のロベールとともにレジスタンスの一員として活動していたが、ロベールはゲシュタポに逮捕されてしまう。マルグリット自身の愛と苦悩が、戦争の記憶とともに語られる激動の愛のドラマ。



©2017 LES FILMS DU POISSON - CINEFRANCE - FRANCE 3 CINEMA - VERSUS PRODUCTION - NEED PRODUCTIONS

半世界

3.30(土)~4.12(金)

2018年|日本|カラー|ビスタ|2h|DCP

監督・脚本:阪本順治

出演:稲垣吾郎、長谷川博己、池脇千鶴、渋川清彦、小野武彦、石橋蓮司

とある地方都市の郊外。何となく父から継いだ炭焼き職人の紘、突然帰ってきた元自衛官の瑛介、中古車販売業をしている光彦の3人は、十数年ぶりに酒を酌み交わす。39歳という年齢の男三人の視点を通じて、人生半ばに差しかかる地点での葛藤と、家族や友人との絆、そして新たな希望を、阪本順治監督が書き下ろしたオリジナル脚本で描く。



©2018「半世界」FILM PARTNERS

ビール・ストリートの恋人たち

3.30(土)~4.12(金)

2018年|アメリカ|カラー|ビスタ|1h59|DCP

監督・脚本:バリー・ジェンキンス

出演:キキ・レイン、ステファン・ジェームス、レジーナ・キング、コールマン・ドミンゴ

1970年代ニューヨーク。19歳のティッシュは幼馴染のファニーの子どもを身ごもるが、彼は無実の罪で収監されていた。二人の愛を守るため、ティッシュと家族はファニーを助け出そうと奔走するが、様々な困難が待ち受けていた…。キング牧師らとともに公民権運動の旗手として活躍したジェームズ・ボールドウィンの原作を『ムーンライト』のバリー・ジェンキンスが映画化。



©2018 ANNAPURNA PICTURES, LLC. All Rights Reserved.

We Margiela マルジェラと私たち

3.30(土)~4.5(金)

2017年|オランダ|カラー|ビスタ|1h43|DCP 監督:メンナ・ラウラ・メイル

出演:ビッキー・ロディティス、グレース・フィッシャー、ディアナ・フェレッティ、ベ、ローニ、ジェニー・メイレンス(声のみ)

ファッションistaから熱烈に支持され、メディアには匿名性を貫いた「メゾン マルタン マルジェラ」のデザイナー、マルタン・マルジェラ。ファッションの最先端を築いた彼は、2009年表舞台から突然姿を消す。ブランドの共同創設者のジェニー・メイレンスやクリエイティブチームの「私たち」が激動の20年間と、謎に包まれたまま業界を去った異端児について初めて語るドキュメンタリー。



©2017 mint film office / AVROTROS

ナポリの隣人

4.6(土)~4.19(金)

2017年|イタリア|カラー|シネスコ|1h48|DCP

監督・脚本:ジャンニ・アマリオ

出演:レナート・カルペンティエーリ、ジョヴァンナ・メッゾジョルノ、エリオ・ジェルマーノ、グレッタ・スカッキ

南イタリア、ナポリの中心地。家族と暮らしたアパートに独り暮らし元弁護士ロレンツォ。シングルマザーの娘と、いつも資金をせびる息子とは折が合わない。ある日、向かいの家に引っ越してきた若い家族と親しくなり、お互いの家を行き来し合う疑似家族のような関係になるが、思いがけない事件が起きる。イタリアの名匠が現代の家族のかたちを描いた傑作。



©2016 Pepito Produzioni

ねことじいちゃん

4.6(土)~4.19(金)

2018年|日本|カラー|シネスコ|1h43|DCP 監督:岩合光昭
 出演:立川志の輔、柴咲コウ、小林薫、田中裕子、柄本佑、銀粉蝶、山中崇

2年前に妻に先立たれ、飼う猫のタマと島で暮らす70歳の大吉。都会から移り住んできた美智子に料理を教わったり、幼馴染の蔵や気心知れた友人たちとのんびり毎日を過ごしていた。しかし友人の死や大吉自身も今までにない体の不調を覚えたり、穏やかな日々に変化が訪れ始めた矢先、タマが姿を消してしまう。動物写真家・岩合光昭初監督&落語家・立川志の輔初主演作、猫と人間の豊かで愛しい物語。



©2018「ねことじいちゃん」製作委員会

盆唄

4.13(土)~4.19(金)

2018年|日本|カラー|ビスタ|2h14|DCP
 監督:中江裕司 出演:福島県双葉町の皆さん、マウイ太鼓
 声の出演(アニメーション):余貴美子、柄本明、村上淳、和田聰宏、桜庭梨那、小柴亮太

2015年。東日本大震災から4年経過した後も、散り散りに避難先での生活を送る福島県双葉町の人々は、先祖代々守り続けていた伝統「盆唄」の存続の危機に直面していた。そんな中、100年以上前に福島からハワイに移住した人々が伝えた盆踊りがフクシマオンドとなって、今も日系人に愛され熱狂的に踊られていることを知る。ハワイ・マウイ島へと向かう双葉の人々に密着したドキュメンタリー。



©2018テレコムスタッフ

シンプル・フェイバー

4.20(土)~5.3(金)

2018年|アメリカ、カナダ|カラー|スタンダード|1h57|DCP|PG12 監督:ポール・フェイグ
 出演:アナ・ケンドリック、ブレイク・ライブラー、ヘンリー・ゴードリング

ニューヨーク郊外に住むシングルマザーのステファニーは、ある日同じクラスに息子を通わせるエミリーと親しくなる。豪華な家に住み、華やかなファッション業界で働くエミリー。対照的なふたりだったが、お互いの秘密を打ち明けあうほど親密になっていた。しかしある日、エミリーはステファニーに息子を預けたまま失踪してしまう。ステファニーは行方を追いはじめるが…。



©2018 Lions Gate Entertainment Inc. All Rights Reserved.

ふたりの女王 メアリーとエリザベス

4.20(土)~5.3(金)

2018年|イギリス|カラー|シネスコ|2h04|DCP 監督:ジョージ・ルーク
 出演:シアーシャ・ローナン、マーゴット・ロビー、ジャック・ロウデン、ジョー・アルウィン、ガイ・ピアース

16歳でフランス王妃となり、18歳で未亡人となったメアリー・スチュワートは、スコットランドへ帰国後王位に戻り、女王エリザベスI世が統治する隣国イングランドの王位継承権を主張する。恋愛、結婚、出産を経験し、若く美しく自信にあふれたメアリーに複雑な想いを抱くエリザベス。従姉妹でありながら恐れ合い、それぞれ陰謀渦巻く宮廷の中で運命に翻弄されていく。



©2018 FOCUS FEATURES LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

川崎市アートセンター

〒215-0004 神奈川県 川崎市 麻生区万福寺6-7-1
 Tel. 044-955-0107 Fax. 044-959-2200 info@kawasaki-ac.jp http://kawasaki-ac.jp/
 小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分

チケットは当日9:00より受付にて販売します。(自由席/整理番号順入場)

◆各種割引《お一人様1000円!》

●木曜日はメンズデー ●金曜日はレディースデー ●夫婦50割

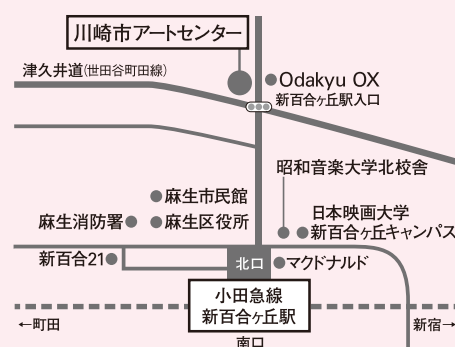
◆アルテリオ・シネマ会員募集中! いつでもお得なシネマ会員価格でみられます!

●入会金500円 ●年会費1000円(1年更新制)

●ポイント5つで招待券1枚プレゼント!

●同伴者割引:1名様まで、一般料金1800円~1300円の作品は一律1200円に割引!

ご入会手続きは受付でのみ承っております。



毎月

第3火曜日
のお楽しみ
2019

ラゾーナ寄席

第82回

2019年

4月16日(火) 17:30受付開始/18:00開場/18:30開演

■会場…ラゾーナ川崎プラザソル

〒212-8576 川崎市幸区堀川町72-1 ラゾーナ川崎プラザ5F

■出演…林家しん平・初音家左橋・柳家小太郎・柳家小ごと

■入場料…全席自由2,000円・25歳以下1,000円

(終演後のおたのしみ“交流会”…希望者のみ・参加費1,500円)

■予約・お問合せ／ラゾーナ川崎プラザソル

電話 044-874-8501 FAX 044-520-9151

E-mail: info@plazasol.jp http://www.plazasol.jp



林家しん平

～風薫る宵のうつろいとともに堪能する幽玄の世界～

かがり火を焚いて、幻想的な雰囲気の中で能・狂言を上演する「新能」。

屋外の開放的な空間で、格式ある舞台を気軽に楽しむことができ、初心者の方にもおすすめです。

■会場 大本山川崎大師平間寺 特設舞台
雨天時：信徒会館(※)

■日時 2019年5月24日(金)
17時半開演(16時半開場)

※雨天時は会場スペースの都合により、
S席チケット購入者のみご入場とさせていただきます。



能「賀茂」観世芳伸(撮影：前島吉裕)

第44回
川崎大師

新能

—TAKIGI NOH—

開演前17時より演目の見どころ解説を予定
(解説：坂口 貴信)

■新能法楽 大導師 貫首 藤田隆乗(大本山川崎大師平間寺)
■仕舞 まきぎぬ 巻絹キリ 鶴澤 久
■狂言 山姥 観世恭秀
■舞囃子 墨塗り 三宅右近
■能 賀茂 山階 彌右衛門

平成30年度川崎大師新能 上演風景
能「鶴鯛」観世芳伸(撮影：前島吉裕)

■チケット発売日 2019年3月20日(水) 10:00より

■チケット取扱所 ●チケットぴあ……TEL:0570-02-9999[Pコード:492-815] WEB:http://w.pia.jp/t/kawasakidaishi/
●川崎駅北口 かわさき きたテラス 観光案内所【アトレ川崎3階 平日/9:00～20:00、土・日・祝日/9:00～19:00】(※)
●ミュージア川崎シンフォニーホール チケットセンター……TEL:044-520-0200
●川崎能楽堂(※)……TEL:044-222-7995【平日/9:00～17:00 2019年4月より水曜定休】
●ラゾーナ川崎プラザソル(※)……TEL:044-874-8501 ●大本山川崎大師平間寺(※)……TEL:044-266-3420
「※」は窓口販売のみ。電話予約は受け付けておりません。

■料金 S席 6,000円(区分指定・区分内自由/雨天時 信徒会館入場可) A席 4,000円(区分指定・区分内自由/雨天時 払い戻し)

U25(A席) 2,000円(25歳以下。公演当日要身分証提示。区分指定・区分内自由/雨天時 払い戻し)

※A席、U25チケットは雨天時に信徒会館への入場はできません。

■主催 川崎大師新能実行委員会 ■共催 一般社団法人川崎市観光協会、公益財団法人川崎市文化財団 ■後援 川崎市、大本山川崎大師平間寺

■お問い合わせ 川崎市文化財団 川崎大師新能係 TEL 044-272-7366

beyond
2020

公益財団法人 川崎市文化財団

〒212-8554 川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー5階
TEL:044(272)7366 FAX:044(544)9647 http://www.kbz.or.jp
平成31年4月1日発行

かわさきアートニュースの制作には、川崎市文化振興基金が活用されています。

川崎市文化財団

検索

●印刷・製本／八幡印刷(株) TEL:044-542-2311